

한통련 뉴스레터

제59호

発行:在日韓国民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●尹政権、国家安保戦略を発表…朝鮮半島の政治軍事的緊張を増大させるばかり



討論会で基調演説するチョ・テヨン国家安保室長

尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権の安全保障戦略をまとめた最上位の指針「国家安保戦略 自由・平和・繁栄のグローバル中核国家」が6月7日、発表された。文在寅(ムン・ジェイン)前政権が2018年に「平和・繁栄の朝鮮半島」実現をテーマにした国家安保戦略を出してから5年ぶりの改定となった。

今回は、北朝鮮(※正しくは朝鮮、以下同じ)の核問題への平和的なアプローチを土台に朝鮮半島における平和定着を最優先にした前政権とは異なり、韓米同盟および韓米日安保協力を強化し、北朝鮮に対しても「原則を通じた南北関係の正常化」を推進することを基調として示した。大統領室は前政権との比較表を参考資料として提供するなど、前政権との違いを強調した。

南北関係

北朝鮮の核・ミサイルについて、最も優先して対応すべき安保脅威とし、「北の

核・ミサイル脅威に能動的に対応するため、韓国独自の対応能力を画期的に補強する」と表明。脅威の高まりで、韓米同盟や韓米日の安保協力がかつてなく重要になっていると訴え、抑止力強化の方針を示した。前政権では韓米日の協力に関連する記述もほとんど盛り込まれなかったが、今回は新しい水準で韓米日協力を向上させるという方針が繰り返し示された。前政権は北朝鮮の核脅威に関して特別な記述をせず、当時の南北首脳会談、朝米首脳会談に触れ、「北の核問題の平和的解決が可視化している」と紹介していた。また、非核化ロードマップの主要段階として朝鮮戦争の終戦宣言と平和協定の締結を掲げていたが、今回はいずれも登場しない。

韓日関係

韓日関係に関連する部分で前政権は「歴史歪曲および独島に対する不当な主張などに断固として対応する」と主張したが、今回は論調を改めた。現政権は「日本と自由や民主主義、人権といった普遍的価値を共有しながら、朝鮮半島と地域・グローバルレベルの協力を強化する」とした。3月の強制動員被害者(元「徴用工」)訴訟問題の解決策発表と、その後の韓日首脳間のシャトル外交復活で、「関係正常化という目標を目に見える形で達成した」と強調し、1998年の韓日共同宣言の精神を受け継ぎ、過去を直視しつつ新しい未来をつくと訴えた。

緊張を増大させる安保戦略

尹政権の国家安保戦略を文政権のそれと比較すればするほど明らかなのは、北に対しては「対話と交渉」ではなく「対決と圧力」、「朝鮮半島の非核化」に対しては「平和的解決」ではなく「拡大核抑止力の強化」、日本に対しては「歴史清算」ではなく「未来志向」、そして「南北（民族）共助」ではなく「韓米共助・韓米日共助」ということだ。

米国に追従し対北敵視政策を継続し日本を含めて強化するだけでは、「南北関係の正常化」を実現することは到底不可能だ。また、北の核・ミサイルの高度化に対して、韓米にはこれを抑制する手段・方法がないこともこの間、明らかになっている。国家安保戦略には、こうした現実を踏まえた具体的な政策が見当たらない。根本的に見直さなければ、朝鮮半島の政治軍事的緊張は増大するばかりだ。

●韓国労総、尹錫悦政権審判闘争を宣言、各界各層に広がる退陣闘争



龍山の大統領室前で「尹政権審判闘争」を宣言する韓国労総

の罷免とイ・ジョンシク労働長官の辞任を要求した。

金委員長は「経社労委（経済社会労働委員会）への参与は全面中断を宣言する」とし、「労働界を対話の相手と認めず、むしろ徹底して排除する政府に対話を求めはしない」と主張した。政府が労使政の社会的対話機構とする大統領直属機関・経社労委（前身は労使政委員会）については、韓国労総は脱退時期をはさみ文在寅（ムン・ジェイン）政権下の2017年10月に復帰、全国民主労働組合総連盟（民主労総）は1999年に労使政委員会を脱退して以来、参加していない。

韓国労総、尹政権審判闘争を宣言

韓国労働組合総連盟（韓国労総）は6月8日、ソウル龍山・大統領室前で「労働弾圧粉砕！ 経社労委参与全面中断！ 尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権審判闘争宣言 韓国労総 記者会見」を開催し、公式に尹政権審判闘争を宣言した。先月30、31日、警察はポスコ光陽製鉄所（全羅南道光陽市）下請け会社労働者のろう城現場を強行鎮圧、その過程で金属労連幹部に暴力をふるい流血事態を引き起こしながら連行。これに強く反発した韓国労総は、前日のろう城現場での緊急中央執行委員会と緊急決意大会に続いて記者会見を開催した。

金東明（キム・ドンミョン）韓国労総委員長は「労働者全体を敵視し弾圧で一貫する尹政権に対する全面的な審判闘争に乗り出す」とし、「今回の光陽事態にみられるように、尹政権の暴走をわれわれが止めなければ、第二第三の光陽事態が続き、これは2500万労働者と全国民の不幸へと続く」と強調した。光陽暴力鎮圧事態と関連して、責任者であるユン・ヒグン警察庁長

両労総は11日、国際労働機構（ILO）に尹政権による労働弾圧を訴え、ILO事務総長は「非常に深刻な状況」だとし、該当委員会の決定に基づき必要な措置を取ると約束した。

各界各層に広がる退陣闘争

歴代保守政権は民主労総を排除する一方、韓国労総を抱き込み、「労働界との対話」をアピールするのが常であった。しかし、尹政権は韓国労総に対しても弾圧に乗り出した。警察の暴力鎮圧事態が韓国労総の経社労委の参与中断を引き起こし、尹政権自らが「労働界との対話」を遮断してしまった。ところが、経社労委は韓国労総の不参加で事実上、空中分解したにもかかわらず、尹大統領は同委のキム・ムンス委員長に向けて、「法治」により対処するよう激励したという。

尹政権は教育、年金とあわせて労働を三大改革として国政の重要課題にあげた。だが、一年を経過してみても三大改革は遅々として進まず、労働改革に至っては労働改悪が企図され労働弾圧が強化されているのが現実だ。

対話と協議を拒否し「法治」を盾に強硬対応で反対勢力を抑え込もうとする尹政権。最近では、政府補助金「不正使用」を口実にした市民団体に対する監視や、公共

性を持つMBC、KBSといった放送メディアに対する統制が始まり、対象範囲が広がっている。

権力による弾圧は民衆の抵抗を生み出し、抵抗は弾圧を乗り越え権力を打倒する。民主労総は尹政権退陣汎国民的抗争と推進機構の構成を呼び掛け（本号「記事紹介」参照）、韓国労総は政権審判を宣言した。尹政権退陣闘争は各界各層に急速に広がりながら、その陣形を整えつつある。

●【記事紹介】民主労総など「尹錫悦退陣汎国民的抗争」を提案…27日に代表者会議



世宗大路上で「尹錫悦退陣」のスローガンをさげ民主労総

尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権退陣を求める声が各界各層に、そして全国に急速に広がる中、民主労総などが汎国民的な退陣闘争とそのための推進機構の結成を呼び掛けた。「民衆の声」の記事（6月6日付け）を紹介する。

民主労総など民衆運動団体が、尹錫悦政権退陣のための汎国民的抗争とこれを推進する共同機構の構想を公式提案した。

労働者、農民、貧民団体の代表らは6月5日、「尹錫悦政権退陣闘争を提案します」との公式提案文を発表した。梁慶洙（ヤン・ギョンス）民主労総委員長、ハ・ウォノ全農議長、ヤン・オッキ全国女性農民会総連合会長、イ・ギョンミン貧民解放実践連帯共同代表の4人が提案者として名を連ねた。

梁委員長らは「尹政権の1年、誰よりも最も苦痛を受け弾圧されてきた人々が労働者、農民、都市貧民だ」とし、「尹政権は急速に富裕層天国・庶民地獄の韓国社会を

つくりだしている」と指摘。「国民の絶対多数であり最も苦痛を受ける労働者・農民・貧民らは尹政権退陣にすべてをかけて闘う」と明らかにした。

提案者は「尹政権の親日親米行脚と朝鮮半島における戦争策動は、憂慮をこえて民衆生存を直接脅かす状況に至った」とし、「民衆の批判と抵抗にくさびを差し物理的弾圧をさらに強化している」と批判。「歴史を10年前、100年前に退行させているとの国民の嘆きと怒りは、いまや抵抗と抗争の導火線となっている」と強調した。

また「宗教界、学会、元老など各界各層から非常時局宣言が引き続いており、政権退陣のための実践と行動が継続している」とし、「最も苦痛を受け最も憤っている労働者、農民、都市貧民と共に力と知恵を集め、尹政権退陣闘争を汎国民的抗争として準備していこう」と提案した。

提案によれば、27日に尹政権退陣闘争に同意するすべての団体、元老・人士らと共に「退陣闘争共同機構諸団体代表者会議」を開く予定。あわせて7月15日に「尹錫悦政権退陣時局大会（1次）」を汎国民的に開催することを提案した。民主労総は7月3～15日の全面スト闘争を決定し準備中だ。

原文

<https://vop.co.kr/A00001634400.html>

활동보고 活動報告

● 韓青がモンダンヨンピル主催の韓国紀行に参加…在日同胞の現状を市民とともに共有



歓迎交流会（左から柳、朴、韓氏）

韓青は6月3日から4日まで、在日韓国人良心囚同友会とともに、モンダンヨンピル（朝鮮学校を支援する韓国国内の団体）の招請行事「在日同胞との同行」に参加した。韓青からは韓成祐（ハン・ソンウ）中央委員長と兵庫県本部の朴偕泰（パク・ヘテ）盟員が参加し、同友会からは柳英数（ユ・ヨンス）氏と李東石（イ・ドンソク）氏が参加した。

3日、仁川空港でモンダンヨンピル事務局と合流。午後からソウル特別市鍾路（チョンノ）区にある「美しい青年 全泰壹（チョン・テイル）記念館」に移動し、モンダンヨンピル会員約30名と共に「反韓ベトコン 韓民統の真実」（MBCが制作したドキュメンタリー番組、2003年

放送）と「スパイ」（KBSが制作したドキュメンタリー番組、2021年放送）を鑑賞。その後参加者全員で質疑応答形式のトークショーが行われた。『祖国が棄てた人びと』の著者キム・ヒョスン氏も参加する中、韓委員長は韓青に関することや生い立ちに関する質問を受け、自身の経験や韓青活動で得た学びについて語った。

4日、江華島（カンファド）を訪問。朝鮮戦争時の国連軍遊撃隊と右翼青年団体による民間人虐殺の現場をフィールドワークした。江華島在住のモンダンヨンピル会員が講師を務め、虐殺現場を訪ね歩きながら虐殺が起きた背景や、真相究明の必要性について解説。江華島に隣接する喬桐島（キョドンド）では乙支タイガー旅団の戦跡地を訪ね、虐殺の加害者である右翼青年団を称える史跡が残り、民衆虐殺の歴史を伝える史跡が無いことへの矛盾を説いた。対岸に朝鮮が見える燕尾亭（ヨンミジョン）を訪問。国楽演奏家とギター演奏家による「イムジン河」の演奏や、モンダンヨンピル事務局の文化公演などが行われた。

ソウル市内でモンダンヨンピル事務局と交流。今後の交流・協力事業について協議した。

[日程]

6/3

仁川国際空港でモンダンヨンピルと合流

午後 ソウル市内の全泰壹記念館に移動。映画鑑賞会&トークショー

夜 歓迎交流会（サムギョプサル）

6/4

午前 タポル公園前に集合、バスで出発

11:30 江華島に到着、昼食

午後 江華島の歴史紀行

燕尾亭に移動、国楽演奏家・音楽家の公演会

夕方 交流会

夜 事務局メンバーとうち上げ

参加記 朴偕泰 (パク・ヘテ)



韓国へ行くのは初めてではありませんでした。家族旅行で、5回ほど訪れたことがありました。しかし今回は、どのときとも違い、初めて自分の背丈で韓国を見つめることができた気がしました。

2日目の昼に訪れた乙支(을지)でバスを降りて歩いていくと、干潟と河を挟んだ先に陸地が見えました。朝鮮民主主義人民共和国でした。今まで写真や映像でしか見たことがありませんでしたが、その日、初めて自分の目で朝鮮を見ることができました。訪れた場所は展望台ではなかったのですが、人の姿や建物の様子は分かりませんでした。でも、それで十分でした。実感を持って朝鮮が「ある」ことがわかりました。

自分の国だと思えるかと言えば、それはまだだと思えます。しかし、確実に心の距離は埋まりました。自分の国だと思えなければ、統一運動の説得力も生まれません。いつか朝鮮も訪れて、南北分断が悲劇であることを噛みしめられるようにになりたいです。

また、ウリマル(韓国語)が十分に話せないことを悔しくも感じました。現在は韓青兵庫県本部でウリマルを教えてもらっていますが、ほんの少し喋れるだけです。今回はモンダンヨンピルに、日本へ留学されたことのある方がいたので通訳をしていただきましたが、どうしても気を使ってしまうところがありました。相手の思いを引き出そうと思うと、自分で話せるようになっていなければなりません。真に韓国を理解するためにも、勉強は必須です。以前にも増して、力を入れて学んでいければと思います。

今回は、これまで家族と訪れた時とは違い、不思議と「外国」という感覚ではありませんでした。仁川空港へ降り立った時も、故郷へ来たんだということが、理解できました。これは韓青で活動する中で、民族意識を持つことを教わり、少しずつ同胞への愛情を持つことができたからだと思えます。そして帰る時には自然と「寂しい」という感情が湧き立ち、そんな自分を不思議な気持ちで見っていました。

楽しかったのはもちろんですし、自分の国だという感情になれたのも大きいですが、いま見つめ直した時に、一番は日本の政治的課題があったからだと思えます。入管法改悪などの法改定が進む中で、日本が徐々に住みにくい場所に変わっています。日々、日本で生きていくことの息苦しさは増しています。在日韓国人として、自分はどうかアイデンティティを持って生きていくのか。今一度問い直すきっかけにしたいと思えます。



写真で見る韓国紀行



仁川空港で合流



トークショー



全泰壹記念館で



律動に挑戦



江華島にて



国楽演奏会



モンダンヨンピル事務局メンバーと



6・15南側委員会青年学生本部と交流

●「尾澤孝司さんの無罪判決を勝ちとろう！」支援コンサートが開かれる



尾澤さんの無実を訴える参加者たち

「<尾澤さんは無実だ>無罪判決を勝ちとろう！ 6・8コンサート」が6月8日夕方、さいたま市のJR浦和駅東口で開かれた。主催は同実行委員会。「尾澤孝司さんを支える会」、「韓国サンケン労組を支援する会」、「尾澤孝司裁判を支援する会・埼玉」が協力団体として名を連ねた。

尾澤孝司さんは2021年5月10日、埼玉県新座市にあるサンケン電気本社前で逮捕された。100%子会社の韓国サンケンの閉鎖・全員解雇の問題について、韓国

の地方労働委員会が出した和解勧告を伝達し、解雇決定した本社が韓国サンケン労組と協議することを訴えようとしていたところであった。昨年11月9日から始まった裁判では、「暴行」も特定されず警備員への「業務妨害」もなかったことが明らかになっている。また、逮捕当日の行動が労働争議の一環として取り組まれたことも強調された。しかし、事件の本質はサンケン資本と公安当局による労働運動・韓日民衆連帯運動に対する弾圧である。裁判は20日の論告求刑・最終意見陳述を経て9月11日に判決公判が予定されている。

宣伝活動と並行して進行したコンサートでは、尾澤さん本人と協力団体からのアピールを交えながら、ジョニーHさん、生田卍(まんじ)バンド、「ノレの会」の歌と「ゆいの会」の仮面劇が披露され、尾澤さんの無罪判決を勝ちとろうと駅前を通行する市民らに力強く訴えた。

●「放射能汚染水海洋投棄共同行動」が汚染水放流に反対し国際共同声明を発表

韓国の環境団体、農漁民、労働、市民団体が参加している「放射能汚染水海洋投棄阻止共同行動」が6月8日、「世界海洋デー」に際し、国際共同声明を発表。(声明は後掲)

△日本政府は福島原発の放射能汚染水を海に捨てるな！△日本政府は福島原発の放射能汚染水を陸地で保管処理しろ！△日本政府は汚染水の放流が安全だというプロパガンダと強制をやめろ！△国際原子力機関

(IAEA)は日本政府と東京電力の汚染水海洋投棄の擁護を直ちにやめろ！の四項目を要求した。

共同声明には団体名義として韓統連神奈川本部、愛知本部、三重本部、大阪本部、兵庫本部、広島本部、韓青が賛同し、個人名義として宋世一(ソン・セイル)委員長、李俊一(イ・チュニル)総務部長、李勝熙(イ・スンヒ)京都本部再建委員長が賛同した。

●都内で「第6回尹錫悦政権糾弾集会」を開催…福島汚染水放流を批判



閉会あいさつする李俊一総務部長

「東京民主実践連帯(東民連)」は6月10日、都内の新宿駅西口地下広場で「第6回尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権糾弾集会」を開催。韓統連・韓青や在日同胞、ニューカマーの韓国人や日本人が有志で参加した。

韓青中央本部の韓成祐(ハン・ソンウ)委員長は「尹政権は戦争演習に反対する学生たちを不当に拘束し、労働運動、市民社会団体に対する弾圧を強化している」と糾

弾。「国民を戦争の危機に迫いやる尹錫悦は退陣するしかない」と語った。韓統連の申久江（シン・クガン）氏は、「朝鮮戦争によって南北分断が固定化されて70年が経った。現在も停戦状態が続いているが、尹錫悦が大統領になって朝鮮半島の緊張が一気に高まっている。国民を戦争危機に晒す尹政権には退陣の道しかない」と語った。

東民連のペ・ウンミ代表は「尹政権が発足し1年余が経ったが、政治、外交、経済、社会すべてが退行、暴走した一年だった」とし、「米国、日本には屈従し、国民には公権力で弾圧する尹大統領は、もはや

韓国の大統領ではない。市民の力をあわせて退陣させよう」と語った。参加者から有志が発言し、日本政府の福島汚染水放流や、尹政権の外交惨事を批判した。

韓統連の李俊一（イ・チュニル）総務部長が閉会あいさつ。「今日は韓国の民主化運動史に輝く、6月民主抗争36周年を迎える日だ。当時、韓国市民は命をかけ、大統領を直接選ぶ権利を勝ち取った。尹政権はいま、検察独裁により市民を弾圧している。先烈たちの闘いを継承し、韓国の民主主義を守り抜こう」と語った。

国際共同声明

福島原発汚染水、海洋投棄ではなく陸上保管せよ

日本政府は福島第1原発で発生した放射性汚染水の海洋投棄を推進している。汚染水の海洋投棄は環境と生命を脅かす無責任な暴挙だ。放射性物質は生態系に長期間にわたって影響を及ぼすことになるが、これによる被害と影響に対する検証や評価が不十分である。原子力発電を推進する立場の国際原子力機関（IAEA）は、海洋投棄による被害評価や最善の代案を勧めるどころか、むしろ汚染水海洋投棄を後押しする後ろ盾の役割をしているだけだ。

日本政府は莫大な汚染水を浄化して薄めて流したら安全だと言っているが、これは希望事項に過ぎない。東京電力は事故から12年が経っても溶け出した核燃料さえ収束できず、ただ水だけを撒いている状況である。日本原子力学会さえも、日本政府の40年廃炉計画案は不可能だと主張している。

汚染水であれ、処理水であれ、希釈しても放射性物質であることは変わらない。トンネルを通じた放流であっても、ロンドン条約と国際海洋法違反から自由ではない。チェルノブイリの石棺や石油備蓄用の大型タンクを使って半減効果で汚染水の毒性が十分に弱まるまで長期保管するか、コンクリートで固めて保管する代替案がある。

1993年ロンドン条約第16回締約国会議は、中低レベルを含め、すべての放射性物質の海洋投棄を全面禁止した。放射性汚染水の海洋投棄は、国連海洋法協約が定めた海洋生態系保存義務に正面から違反する行為だ。IAEAは、日本政府が汚染水の放流よりはるかに安全な方案を採用し、エコシステムと国境被害を最小化するように勧告しなければならない。

海はすべての生命体の源である。汚染水の放流投棄は結局、生命体への殺傷行為である。世界市民が到底容認できない明確な理由だ。

6月8日世界海洋の日を迎え、我々は次のように求める。

- 日本政府は福島原発の放射能汚染水を海に捨てるな！
- 日本政府は福島原発の放射能汚染水を陸地で保管処理しろ！
- 日本政府は汚染水の放流が安全だというプロパガンダと強制をやめろ！
- IAEAは日本政府と東京電力の汚染水の海洋投棄の擁護を直ちにやめろ！

2023年6月8日

福島原発汚染水の海洋投棄に反対する国際署名 個人と団体一同

●三千里鐵道が6.15共同宣言記念集会を開催…青木理氏と康宗憲顧問が対談



対談する康宗憲顧問（左）と青木理氏

NPO法人三千里鐵道は6月11日、名古屋市内の東別院ホールで「6.15共同宣言23周年記念集会／青木理氏に聞く」を開催した。

三千里鐵道の都相太（ト・サンテ）理事長が主催者あいさつ。「青木理さんと康宗憲（カン・ジョンホン）さんの組み合わせ、これをぜひ見たいと思い、本日の集会に至った。非常に貴重な機会。しっかりと味わっていただきたい」と語り、辻恵氏

（元衆議院議員・弁護士）が来賓挨拶した。

ジャーナリストの青木理氏と三千里鐵道の康宗憲顧問が対談。青木氏は韓日関係について「日本政府の強制動員問題に対する態度はまったくよくない。大法院判決を韓日の歴史戦の要素とするのではなく、帝国主義史観の克服、人権問題と捉え、日本は真摯に向き合うべきだ」と語った。康顧問は朝鮮半島の平和構築について「6.15共同宣言によって南北対話が加速し、朝日対話を促した。韓日関係においても、日本は『98年の韓日パートナーシップ宣言に戻ろう』という立場に立っているとはとても言えず、日本には韓日、朝日関係を改善する責務がある。状況は悲観的に見えても、必ず突破口はある。がんばっていきましょう」と語った。

対談後の懇親会では50名以上が参加し、各々の感想を共有した。

●大阪本部が韓統連セミナーを開催…尹政権の対外政策を批判



講演する金昌五副代表委員

韓統連大阪本部は6月11日、韓統連セミナー第2回「尹政権の対北政策と公安政局～時代の逆行を許してはならない～」をKCC会館（大阪市生野区）で開催した。

金隆司（キム・ユンサ）代表委員が主催者あいさつ。「尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権が発足して1年が経つが、韓国の民主化は崩壊し、南北関係は停滞したまま

だ。セミナーを通じて尹政権の対北政策などについて認識を共有しよう」と語った。

金昌五（キム・チャンオ）副代表委員が「戦争の危機を克服して、平和と繁栄の時代を切り開こう」をテーマに報告。金副代表委員は尹政権の対米・対日関係について「尹政権の対日屈辱外交により、米国が目指す韓米日軍事同盟の確立が進められ、韓国と日本は対朝鮮・中国・ロシアの先兵隊の役割を担っている」と指摘。「昨年から韓米合同軍事演習が再開される中、朝鮮は『強対強、善対善』の政策により軍事的対応を強化している。高まる戦争の危機を回避するためには、韓米合同軍事演習の中止と停戦協定を平和協定に変えることだ」と強調した。

報告後は質疑討論と今後の行事予定が紹介され、金昌範（キム・チャンボム）副代表委員が閉会あいさつした。

■韓統連ホームページ、日々更新しています

韓統連ホームページでは、朝鮮半島情勢や私たちの活動予定・報告などを日々アップしています。また、講演や集会の写真、動画などは韓統連インスタグラム、韓統連YouTubeチャンネルで配信しています。あわせてぜひご覧ください。

韓統連ホームページ

<https://chuo.korea-htr.org/>

韓統連YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCg8NZg52O1VTAMlgrXfqjQ>

韓統連Instagram

https://www.instagram.com/korea_htr/?hl=ja



韓統連YouTubeチャンネル



リーフレット「朝鮮戦争停戦70年－停戦協定を平和協定へ」を作成しました

韓統連では、停戦70年を契機に停戦協定から平和協定への転換を目指し、キャンペーンを開催しています。

キャンペーンの一環として、平和協定に関するリーフレットを作成しました。韓統連ホームページから閲覧・ダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

閲覧・ダウンロードリンク

<https://chuo.korea-htr.org/plan/1414/>

행사예정 行事予定

6月

朝鮮戦争停戦70周年 停戦70年を平和協定の元年に！ 6・16大阪集会

日時：6月16日（金）午後6時受付、午後6時30分開会 場所：PLP会館中会議室 内容：韓国「停戦70年 朝鮮半島平和行動」から招請（予定） 参加費：1000円 主催：日韓平和連帯 連絡先：06-6583-5549（全日建運輸連帯労組近畿地方本部）

7月

第7回尹錫悦政権糾弾集会(東京)

日時：7月8日（土）午後5時30分 場所：新宿駅西口地下イベント広場 主催：東京民主実践連帯 連絡先：090-4298-6113（李）

韓統連兵庫セミナー

日時：7月9日（日）午後2時開始 場所：神戸市中央区文化センター会議室 内容：情勢講演（講師：韓統連大阪本部 金昌五（キム・チャンオ）副代表委員） 参加費：1000円 主催：韓統連兵庫本部 連絡先：090-5016-6352（チェ）

編集後記

昨日は6.15南北共同宣言の23周年でした。尹政権の対北敵視政策によって南北関係は停滞していますが、わたしたち民族の願いが統一であることに変わりはありません。敵視政策を中止させ、停戦協定を平和協定へ。民族の力で勝ち取っていきましょう（李）